

令和5年12月7日

(2023年)

保護者の皆さま

吹田市立古江台中学校

校長 佐藤 忍

令和5年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、3年生を対象として「令和5年度全国学力・学習状況調査」を実施し、8月下旬に個人ごとの結果をお返ししました。また、吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は中学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語・数学・英語に限られ、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面にすぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった3年生を含め本校生徒には、よりきめ細やかな指導ができるよう取組を進めるとともに、学校全体として課題に応じた、学力向上につながる具体的な指導方法の工夫改善を図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にしていただきますようお願いいたします。

1. 教科に関する調査結果の概要



【国語】

概要

- ・すべての領域において、平均正答率は全国値を上回っている。
- ・無回答率も全国値を下回っている。問題の過半数が「無回答率ゼロ」となっていることから、学習意欲の定着が図れていることがうかがえる。

各領域の成果と課題

◆全体

- ・全ての問題で正答率が全国値を大きく上回り、良好な結果が見られる。
- ・必要に応じて自身の考えや意見を適宜アウトプット（話す・聞く・読む・書く）できるよう、引き続き、読書や作文、発表などの学習を通して「論理的に物事を考える力」を育成していく。

◇話すこと・聞くこと

- ・正答率が高く、良好な結果が見られる。無回答率も低く、意欲的に取り組んでいることがうかがえる。

◇書くこと

- ・正答率が高く、良好な結果が見られる。しかし、他に比べ、無回答率は少し高い。書くことに対する苦手意識を感じるため、1年生やその前段階の小学校時にも文章を書くことを継続して学習していく必要があると考えられる。

◇読むこと

- ・正答率が高く、良好な結果が見られる。無回答率も低く、意欲的に取り組んでいることがうかがえる。3年間の取り組んできた「朝読」の成果も一定出ていると考えられる。

◇伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- ・正答率が高く、良好な結果が見られる。無回答率も低く、意欲的に取り組んでいることがうかがえる。また漢字の問いは全国平均を大きく上回っているため、漢字の反復練習や朝読の成果が出ていると考えられる。
- ・書写、古典作品等の1、2年時に学習した内容が定着していることがうかがえる。

国語科における具体的な成果と課題・今後の指導改善点について

- ・今回の調査から、日ごろの学習成果と生徒の日常の努力を確認することができた。漢字の反復練習や朝読など、地道な学習の積み重ねが成果として現れている。
- ・「読むこと」「書くこと」に必要な「語彙力」を増やし、「言葉の意味」を正確にとらえることができるようにするため、引き続き、授業の中で多くの文章や種々様々な知識に触れる機会を設けられるよう努めていく。
- ・資料を活用して読み解いたり、資料から自分の意見や考えを伝えたりする上で必要な「論理的思考力」の向上に取り組んでいく。
- ・日常の授業を通して「学習に向き合う真摯な姿勢」「何事も諦めない姿勢」を育み定着させるために、引き続き「個々の能力の把握」「一人一人の可能性を認め励まし自己肯定感を高められるような工夫」に取り組む。

【数学】

概要

- ・すべての領域において、平均正答率は全国値を上回っている。
- ・思考・判断・表現の観点において、大きく上回っている。
- ・記述式の問題形式において、大きく上回っている。

各領域の成果と課題

◆全体

- ・ほとんどの問題で、正答率が全国値を大きく上回っている。

◇数と式

- ・計算や基礎知識を問う問題は、相当数の生徒が理解できていると見られる。また、記述式の問題形式においても、正答率は全国値を大きく上回っている。

◇図形

- ・平均正答率は、全国値と比べて、特に大きく上回っている。また、根拠をもとに図形の性質を判断する力や表現する力がついていると考えられる。

◇関数

- ・平均正答率は、全国値と比べて、特に大きく上回っている。
- ・実生活に基づいた問題の中にある、数学的な関数関係として解釈し、表やグラフを関連付けて問題を考えることができていると見られる。



◇データの活用

- ・知識の問題では全国値を下回った。2つのデータを比較して読み取り、説明する問題に関しては、全国値を上回る結果であった。

数学科における具体的な成果と課題・今後の指導改善点について

- ・これまで授業内で記述式の問題に多く取り組むことで、記述式の問題への無回答率を減少させることができた。
- ・数学的な思考、判断、表現については、身につけてきているが、それをより伸ばすためにも基本的な計算技能を鍛えていく必要がある。
- ・定着の度合いによって、少人数授業で個に応じたきめ細やかな指導をしていく必要がある。

【英語】

概要

- ・どの領域でもすべての問題で平均正答率は全国値を上回っている。
- ・無回答率も全国値を下回っており、前向きな学習姿勢が定着している。

各領域の成果と課題

◆全体

- ・全ての問題で、正答率が全国値を大きく上回っている。

◇聞くこと

- ・正答率は全国値を上回っており、良好な結果が見られる。全国で正答率がもっとも低かった説明を聞いて質問に答える問題も、全国値よりも、大きく上回る正答率が見られ、内容を理解して問題に答えていることがうかがえる。

◇読むこと

- ・正答率は全国値を上回っており、良好な結果が見られる。無回答率においても、読解問題の大問が3問続いたが、すべての大問において全国値より高い回答率であり、粘り強く問題に向き合う姿勢が見られる。

◇書くこと

- ・正答率は全国値を上回っており、良好な結果が見られる。「自分の考えを記述する問題」は全国値においては無回答率が、かなり高いが、本校の無回答率は全国から大きく下回り、意欲的に問題に取り組んでいることがうかがえる。
- ・与えられたテーマについて考えを整理し、文と文のつながりなどに注意してまとまりのある文章を書く問題は、全国においては正答率がかなり低い問題であったが、本校では全国値をかなり大きく上回ってはいるものの、正答率は低くなっている。

◇話すこと

- ・正答率は全国値を上回っており、良好な結果が見られる。平均正答率も全国に対し、大きく上回っている。回答率も全ての問題において全国を上回っており、無回答ではなく、既習の英語を使い、考えようとする姿勢が見られる。
- ・質問には答えているが、説明が不足していたり、誤った文法を含んだ英語を話していたりする生徒が多く

見られる。また「環境」をテーマにした問題では、正答率が最も低かった。自分の考えとその理由をまとめ、英語に直して話すことに課題が見られる。

英語科における具体的な成果と課題・今後の指導改善点について

- ・今回の調査から、どの領域においても高い正答率のものが多く、生徒の日頃の努力の成果や意欲の高さが確認できた。
- ・聞くことの領域においては、聞いて把握した内容について、適正に応じることができる力に課題があった。
- ・読むことの領域においては、書かれた内容に対して、自分の考えを示すことができるよう、話の内容や書き手の意見などをとらえる力に課題があった。
- ・書くことの領域においては、与えられたテーマについて考えを整理し、文と文のつながりなどに注意してまとまりのある文章を書く力に課題があった。
- ・話すことの領域においては、社会的な話題に関して聞いたことについて、自分の考えとその理由を話すことに課題が見られた。
- ・まとまりのある文章を書く力や、問題の指示に従って正しい英語に書き換えられる力を養っていけるよう、個に応じた指導を行う必要がある。

2. 生活習慣や学習環境に関する調査の傾向

【自分自身のことについて】

- ・「自分にはよいところがあるか」は全国値をやや上回っている。
- ・「新聞を読んでいる。」は全国値を上回っている。
- ・「将来の夢や目標を持っていますか」は全国値とほぼ同じである。
- ・「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる。」は、全国平均とほぼ同じである。
- ・「普段の生活で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか。」は全国平均をやや下回っている。



【家庭生活・生活習慣について】

- ・「朝食を毎日食べている。」「家の人と学校での出来事について話をする。」は全国値をやや下回っている。
- ・「毎日同じくらいの時刻に就寝・起床している。」は全国値をやや下回っている。
- ・「家で自分が計画を立てて、勉強しているか」は、全国値を上回っている。
- ・「あなたの家にはどれくらいの本がありますか（一般の雑誌、新聞、教科書は除きます）」は、全国値をやや下回っている。

【学校生活について】

- ・「学校に行くのが楽しい。」の割合は全国値を上回っている。
- ・「友達関係満足していますか。」については全国値よりやや上回っている。
- ・「読書は好きですか」は全国値より上回っている。
- ・「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思うか」は全国値を上回っている。
- ・「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている。」は全国値を上回っている。
- ・「道徳の授業では、自分の考えを深めるために、学級のグループで話し合ったりする活動に取り組んで

いますか」は全国値をやや上回っている。

【学習習慣について】

- ・「学校の授業時間以外に、普段（月～金）、1日あたりどれくらい時間、PC、タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか。」については全国値を下回っている。

【学習について】

- ・「国語の勉強は、好きだ。」は、全国平均とほぼ同じである。
- ・「数学の勉強は、好きだ。」は、全国平均とほぼ同じである。
- ・「英語の勉強は、好きだ。」は、全国平均とほぼ同じである。

【今後の取り組み】

今回の調査の結果を踏まえ、本校では、生徒達に自主・自律の力を育むことを目指し、基礎的・基本的な知識と技能の習得の徹底と、思考力・判断力・表現力の向上を図るため、教職員個々の指導力の向上と授業の質的向上に努めてまいります。そのために、授業方法の工夫改善に努めるとともに、少人数授業を充実させ、個に応じたきめ細やかな指導を推進していきます。

ご家庭におかれましては、規則正しい生活をお子さんに身につけさせ、バランスのとれた食事や適度な運動をさせて下さい。また、学校生活について、お子様とたくさん会話する時間を持っていただきたいと思います。また、お子様の学習課題や学習習慣について、毎月発行している「学習ナビ」をご活用いただく等、お子様の学習意欲の向上と学習習慣の定着に向けてご協力くださいますようお願い申し上げます。

3. 今後の取組について

今回の調査の結果を踏まえ、本校では、生徒が生涯にわたって学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うために、教職員個々の指導力の向上と授業の質的向上に努めてまいります。また、少人数授業の充実やSUN ネット端末の活用等による「個別最適な学び」と、探求的な学習や体験活動などを通じた「協働的な学び」の一体的な充実に努め、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげてまいります。さらに、授業における言語活動の充実のため、教科間の連携や、学年を超えた言語活動が実施されるよう、カリキュラムマネジメントを適正に行ってまいります。

ご家庭におかれましては、学校生活について、お子様とたくさん会話する時間を多く持っていただきたいと思います。また、年間5回発行している「学習ナビ」をご活用いただく等、お子様の学習意欲の向上と学習習慣の定着に向けてご協力くださいますようお願い申し上げます。